

平成19年度 学校自己評価表

鳥取県立倉吉東高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	「倉吉東高のかたち」の理想に沿って、本校の教育活動を更に充実発展させるとともに、主体的な学習者・21世紀の日本を支え、世界をリードする高い志を持った人材の育成をめざす。	今年度の重点目標	1 「倉吉東高のかたち」の充実・発展 ・学校文化度の向上 ・教育力向上の推進 ・進路指導の充実 2 学校評価の充実 3 中高連携の強化 4 専攻科教育の一層の充実 5 定時制教育の更なる充実発展 6 創立100周年の準備
-------------------	--	----------	--

年度当初					評価結果()月		
評価項目	具体的項目	目指す姿	現状	具体的方策	経過・達成状況	評価	改善方策
1 「倉吉東高のかたち」の充実・発展	学校文化度の向上	規律ある生活	・全校遅刻0を目指す ・指導7項目の遵守 ・安易な欠席、早退をなくす。 ・自分の置かれた立場や場面に相応しい言動ができる。 ・校内に品位と落ち着いた雰囲気を感じられる。	・全校遅刻0の日、昨年度3日。 ・一部頭髮加工や服装の着こなしに問題のある生徒が見受けられる。 ・月曜日や行事、部活動の大会の翌日に欠席や早退が多い。	・育友会(健全育成委員会活動)を通して保護者への理解と協力を求める。 ・全校集会学年集会などでねばり強く指導する。 ・挨拶の励行、教師や外来者へのマナー指導を行う。 ・様々な学校行事生徒会行事の場面で場にふさわしい言動ができるよう必要に応じた支援を行う。		
		チューター制度の充実	・新入生が高校生活へスムーズに移行している。 ・チューター実践を通して、上級生がリーダーとしての自覚を深めている。 ・縦の人間関係の強化と次世代への継承がなされている。	・導入3年目を迎え、ある程度の完成度が要求される。 ・新入生の本校生としての自覚(服装や家庭学習時間など)が早期に定着していない。 ・上級生としての自覚も十分でない。	・チューターハンドブックを効果的に活用する。 ・チューターオリエンテーションを充実させる。 ・チューター制度への職員の関わりを強化する。		
		朝読書の定着と読書小論文活動の充実	・抽象的思考力がある。 ・学びを自らの生き方に昇華できる。 ・各教科を学ぶ前提となる基礎学力が身に付いている。 ・精神的に成長している。 ・社会的存在であることを自覚している。	・生徒1人あたりの図書館利用率が低い。 ・全ての教科の基礎となる読書量が足りない。 ・精神的に幼さを感じる生徒が見られる。	・今年度から開始した朝読書を企画に沿って着実に実行していく。 ・各生徒の読書状況を把握して必読図書はもとより、一定の抽象度を有する本を多く読む習慣を育成する。 ・LHRなどで「学びの復権」冊子を十分活用する。		
		テーマ学習の深化	・科学的根拠にもとづいた論理的かつ説得力あるプレゼンテーションができる。 ・学園祭のプレゼンテーションコンテスト・国際高校生フォーラムに発展させることができる。	・インターネットなどでの調査研究がほとんどで考察による深まりが不足している。 ・教員の関わりが不十分である。	・本というメディアが論理を構成する上でかけがえのないものであり、本を読んで研究するといった姿勢の必要性を理解させる。 ・考察の深まりを促す教師側からの指導を強化する。 ・朝読書との連携をはかる。		

のかたち」の充実・発展	教育力向上の推進	教科指導力の向上	・教員1人ひとりが高い教科指導力を持ち、授業を通して各教科の魅力や奥深さを生徒に伝えることができる。 ・テストや大学受験といった実利目的を越えて、生徒の学びが真理探究といった高次のものとなっている。	・教員の教科指導力に未熟な部分があり、生徒の学習を内発的主体的なものにまで高められていない。 ・生徒の学習が依然としてテストや課題に追われたその場しのぎの学習であることが多い。	・教科の枠を越えた授業相互参観を日常化し、感想アンケートによる授業改善を行う。 ・先進校教師招聘事業を積極的に行う。 ・教科毎の問題作成会議を常態化する。 ・教科による適切な教材開発を行う。 ・授業評価アンケートの効果的活用をはかる。			
		「教師力」の向上	・教科指導以外の様々な場面で要求される教師としての力量が備わっている。	・学校経営に沿ったベクトル合わせの力は評価できる。 ・生徒の自主性主体性を育成する点で力不足。	・研修会(フォーラム参加校合同研究会、定例職員会での職員研修、講師招聘事業等)への積極的参加。 ・日常の勤務における問題意識を多くの職員と共有しながら、同僚性を高め、問題解決能力を強化していく。 ・多くの教職員にプレゼンテーションの機会を設けることによって、互いの意識向上を図る。			
	進路指導の充実	進路目標を見据えた生き方の指導	・生徒が「学力＝生活力」であることを自覚している。 ・進路指導が生き方指導となっている。 ・生徒の意識が「今・自分・権利」中心から、「将来・社会・貢献」へと向上している。	・生活・学習指導が生徒1人ひとりの将来を見据えたものでなく、場当たりの指導になっているケースが見られる。 ・家庭学習が進路目標を意識した主体的な学習になっていない。	・進路LHRなど進路指導を充実させ、入れる大学から入りたい大学へ、更に入るべき大学へといった意識の昇華を要請していく。 ・職員研修を通して進路指導の重要性を自覚すると共に進路指導力を高めていく。 ・OB講演会等を通して意識向上を図る。			
		国公立大学合格者数の維持・発展	・地域を代表する進学校として相応しい実績の維持。 ・現役合格者数150名。 ・ブロック大合格者数現浪合計40名。	(現役合格) ・昨年度142名。一昨年度172名。 (ブロック大学) ・昨年度25名、一昨年度38名。	・教師の授業力向上と生徒の家庭学習時間の確保。 ・情報収集や大学訪問を通して、生徒教師とも大学研究を充実させる。 ・育友会主催の大学見学会の参加者を増やす。 ・遅進者指導を迅速に行う。 ・定期テスト、課題テストの正確な実行と事後指導の徹底をはかる。			
		難関大学合格者数の維持・発展	・地域を代表する進学校として相応しい実績の維持。 ・現浪合計20名以上。 ・東京大学5名。	(難関大学) ・昨年度21名、一昨年度13名。 (東京大学) ・昨年度1名、一昨年度3名。	・教員による大学見学などを通して難関大学の魅力を生徒に伝えていく努力をする。 ・3年・専攻科合同課外等を充実させ、学力層に応じたきめ細かい指導を行う。 ・駿台ハイレベル模試の受験者を増やす。 ・教員による大学入試問題研究を充実させる。			
2. 学校評価の充実	学校評価アンケートの活用		・学校評価アンケート結果を学校経営に素早く反映させ、魅力的な学校作りを行っている。 ・説明責任を認識して適切に実行している。	・生徒保護者の要望を学校経営に活かし切れていない点がある。 ・学校の考え方をうまく発信しきれていない面がある。	・ホームページを充実させ、更新を頻繁に行うことで保護者の意見や質問に的確かつ迅速に対応していく。 ・保護者から頂いた意見に対しては改めるべき点は改め、速やかに学校としての考え方を発信する。 ・学校評価アンケートの実施方法を明確に位置づける。			
	外部評価委員会の充実		・外部評価委員による学校経営への積極的提言がなされている。 ・外部評価委員の提言が誠実かつ迅速に学校経営に活かされている。	・昨年度から他校に先駆けて導入している。 ・一定の成果はあがっている。	・今年度の重点目標を明確にし、委員による評価の基準が明確になるよう工夫する。 ・外部評価委員研修会を通して、評価委員の評価力を向上させる。			
	苅谷研究室との連携強化		・「倉吉東高のかたち」に沿った生徒育成状況の検証がなされている。 ・「倉吉東高のかたち」に謳っている生徒育成に本校教育が機能している。	・「倉吉東高」の育成状況把握が進行中である。 ・本校における教科指導、特別活動が目指す生徒育成に機能しているか検証中。 ・研究結果がまだ学校経営に生かせる状況に至っていない。	・苅谷研究室との連携を密にして、アンケート調査の完成度を高めた的確な分析を行う。 ・他校との比較を通して、本校教育のあり方を検討し是正していく。 ・効果的な行事とそうでないものとを洗い出し、改訂を行う。			

3. 中高連携の強化	中学生向け特別講座の充実	・地域の中学校教員と本校教員が相互の教育内容や目的を十分理解し、それらを意識しながら一貫した指導を行っている。 ・教科学習に関して高きを目指す中学生が育っている。	・昨年度の取り組みがある程度効果を挙げたと思われる。 ・中学校への波及効果の把握が不十分である。	・昨年度と同様のスケジュールで企画する。 ・今年度は英語に加えて数学でも実施する。 ・中学への働きかけを強化し、共同で研究する方向に進める。			
4. 専攻科教育の一層の充実	地域の期待に応えられる実績の維持・向上	・生徒1人ひとりが学問に対して誠実に主体的に取り組んでおり、学力と共に人間力も向上している。 ・生徒1人ひとりの学力差に応じたきめの細かい指導により潜在能力が引き出され、難関大合格者が増加している。	・今年の専攻科入試は多くの需要があった。 ・近年順調に実績もあげている。 ・東京大学に3年連続2人の合格者を出したが、昨年度は0であった。	・テーマ研究発表、教師体験授業等の取り組み復活。 ・課外授業を現役と合同で実施することにより、より多段階の習熟度編成を行う。 ・きめ細かい個別指導。			
5. 定時制教育の更なる充実発展	退学者・休学者の減少	・教員があらゆる機会を捉えて生徒理解に努めている。 ・規律とけじめある基本的な生活習慣が確立し、生徒達が明るく楽しく授業に参加している。	・例年になく学校生活の雰囲気は落ち着いてきている。 ・様々な事情により支援を必要とする生徒が多数在学している。 ・生徒の家庭状況がより一層多様化している。	・わかりやすい授業を実施する。 ・職員連携を充実する。 ・学校と家庭、職場、教育機関との連携を強化する。			
6. 創立100周年の準備	記念誌・式典・祝賀会の準備	・記念誌沿革史部分の原稿完成、全体の骨格大筋完成、DVD作成の準備。 ・式典・祝賀会の日時・式次第・記念講演講師決定。	・同窓会と連絡を取りながら着実に進行中。	・同窓会との連絡を密にして、滞りなく実行する。 ・新年度の職員役割分担を再確認し、タイムテーブルに沿って、着実に準備を進める。			